

女性自立・収入向上

伝統織物 ティナラク織とナバルタビ織の継承を支えて

若手育成研修・伝統の家/織の家建設・イベント参加による販売/広報

ティナラク織への本格支援は、2000年に女性組合COWHEDの織研修から始まりました。ティボリ民族が多く住むレイクセブ町は風光明媚な避暑地であったこともあり、早くから「ティボリ民族といえばティナラク」と広く知られていました。しかし、時間のかかる、単調で骨の折れる仕事は若い人には好まれず、またお金がなければ糸を買えず、母から娘へという技術継承は危機に直面しました。

研修には、30名が参加し、修了生には低金利で始業資金が貸し

付けられ、以後織で家計を支えている女性も多くいます。

2007年念願だった「伝統の家」をセブ湖に臨む地に建設。観光客は先住民族の文化に触れ、お土産を購入するだけでなく、景色を堪能し、心地良さに昼寝をしていく人もいます。



ナバルタビ織への支援開始は、2006年ポロモロック町アムグオ村に「織の家」建設です。このビラーン民族の村では、15年程前に村長の息子が民族の伝統継承に目覚め、織の家を建て、食費支援を約束して、各地に散っていた熟練織手6名を呼びよせて織り続けてもらっていました。

しかし、その織の家が強風で壊されたため、支援要請がありました。「織の家」建設後、織研修も実施し、遠方の研修生は、ここに宿泊して研修を受けました。これを機にナバルタビ織振興グループNTPが結成され、HANDSの元奨学生スヌーリアが責任者を務めています。

日本での販路拡大の支援 年十数回イベントに参加しています

各種イベントで特に人気のある現地縫製のティナラク織製品



トートバッグ



ブックカバー



カードケース



10月5日

グローバルフェスタ

ナバルタビ織と会員・ボランティアによる縫製品

現地に縫製技術者がいないナバルタビ織は、日本で縫製して織の良さを広めています



夏帯として人気